

日 拝 塚 遺 跡

— 4 ・ 5 ・ 7 次 調 査 —

福岡県春日市下白水南所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書 第72集

2014

春日市教育委員会

序

春日市は福岡市の南に隣接し、昭和 47 年の市制施行以来、福岡市のベッドタウンとして都市化が進みました。かつての農地や山林は開発され、これらの開発に先立ち遺跡の発掘調査が行われた結果、貴重な文化財が多く確認されることになりました。その一方で、住宅開発が早くに行われたため、調査ができずに開発されてしまった地域もあります。

日拝塚遺跡は遺跡が所在する台地の最高所に日拝塚古墳があります。日拝塚古墳は「日を拝む塚」として古くから地域の方々の信仰の対象となってきました。昭和 4 年に盗掘に遭い、古墳から出土した資料は東京国立博物館に収蔵されることとなりましたが、日拝塚古墳から出土したとされる金製垂飾付耳飾は奴国の丘歴史資料館で展示しています。また、日拝塚古墳は昭和 52 年に国指定史跡に指定されて以降、史跡整備を行ってきました。古墳の周辺で宅地化が進む中、住宅建設に伴う事前調査において、古墳の周辺にも遺跡が広がることがわかってきました。

本書は春日市が平成 17、18、23 年度に発掘調査を実施した日拝塚遺跡 4・5・7 次調査の調査報告書です。日拝塚遺跡での調査は調査面積が狭く、遺跡の全容を解明するには至りませんが、日拝塚古墳周辺での集落の様相を考察する上での一資料となりました。

本書が埋蔵文化財への理解を深める研究資料として活用され、また市民の皆様に郷土の歴史を知る一助となれば幸いです。

最後になりましたが、地権者の皆様をはじめ発掘調査に際し御理解御協力を賜りました方々に深く謝意を申し上げます。

平成 26 年 3 月 31 日

春日市教育委員会
教育長 山本直俊

例 言

1. 本書は2006年2月17日から同年2月28日（4次調査）及び、2006年7月24日から同年8月7日（5次調査）及び、2012年1月21日から同年2月21日（7次調査）にかけて春日市教育委員会が実施した日拝塚遺跡4・5・7次調査の報告書である。
2. 遺構の実測は丸山康晴（4次調査）、吉田佳広、吉田浩之（5次調査）、吉田佳広、森井千賀子（7次調査）が行い、製図は水上愛子が行った。
3. 遺物の実測、製図は森井が行った。
4. 掲載した写真のうち、遺構については丸山（4次調査）、吉田佳広（5次調査）、森井（7次調査）が撮影し、遺物については岡紀久夫（文化財写真工房）が行った。
5. 本書に使用した2万5千分の1の地形図は、国土地理院発行の『福岡南部』である。
6. 本書の遺構実測図に用いた方位は、4次調査は磁北、5・7次調査は座標北である。
7. 出土した陶磁器の分類は宮崎亮一編「太宰府条房跡XV 陶磁器分類編」2000 太宰府市教育委員会による。
8. 7次調査の土層断面観察の記載について、土色は小山正志・竹原秀雄編『新版標準土色帳』1996年後期版 農林水産省農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所色票監修を用いた。
9. 鉄器の保存処理は福岡市埋蔵文化財センターの御好意により同センターにて島津屋幸子が行った。
10. 本書の執筆は5次調査を吉田佳広、4・7次調査を森井が行い、編集は森井が行った。

本文目次

I	はじめに	1
1	調査に至る経過	1
2	調査の組織	1
II	位置と環境	3
III	4次調査の内容	6
1	調査の概要	6
2	遺構	8
(1)	掘立柱建物跡	8
(2)	土坑	8
(3)	溝状遺構	8
3	遺物	8
4	小結	8
IV	5次調査の内容	9
1	調査の概要	9
2	遺構	9
3	遺物	9
4	小結	9
V	7次調査の内容	12
1	調査の概要	12
2	遺構	12
(1)	竪穴住居跡	12
(2)	土坑	12
(3)	溝状遺構	15
(4)	ピット	15
3	遺物	16
(1)	土器・陶磁器	16
(2)	石器・玉類・石製品	17
(3)	鉄器	17
4	小結	17
IV	まとめ	18

図 版 目 次

図版 1	1	4次調査 調査区全景（西から）
	2	1号掘立柱建物跡（南から）
	3	1号溝（東から）
図版 2	1	5次調査 調査区全景（上が北）
	2	5次調査地点より北方を望む（南から）
図版 3	1	1号土坑（南から）
	2	2号土坑（東から）
	3	7次調査 調査区西半全景（北から）
図版 4	1	7次調査 調査区東半全景（南から）
	2	7次調査地点より南方を望む（北から）
図版 5	1	1号住居跡（南から）
	2	1号住居跡炉跡土層断面（西から）
	3	P58 鉄器出土状況（東から）
	4	2号土坑鉄器出土状況（西から）
図版 6	4・7次調査出土土器・石器・陶磁器	
図版 7	7次調査出土石器・玉類・石製品・鉄器	

挿 図 目 次

第 1 図	日拝塚遺跡周辺遺跡分布図（1/25,000）	4
第 2 図	日拝塚遺跡位置図（1/2,500）	5
第 3 図	4次調査遺構配置図（1/50）	6
第 4 図	1・2号掘立柱建物跡実測図（1/60）	7
第 5 図	遺構検出時出土土師器実測図（1/3）	8
第 6 図	5次調査遺構配置図（1/100）	10
第 7 図	1・2号土坑実測図（1/40）	11
第 8 図	攪乱出土石器実測図（1/2）	11
第 9 図	7次調査遺構配置図（1/80）	13
第 10 図	1号竪穴住居跡実測図（1/40）	14
第 11 図	住居跡・土坑・溝・ピット出土土器・陶磁器実測図（1/4・1/3）	15
第 12 図	住居跡・ピット出土石器・玉類・石製品実測図（1/2・1/1）	15
第 13 図	土坑・ピット出土鉄器実測図（1/2）	16

I はじめに

1 調査に至る経過

日拝塚遺跡4次調査は共同住宅建設に伴う緊急発掘調査である。対象地の地番は福岡県春日市下白水南6丁目28、29番で、開発に先立ち埋蔵文化財事前調査依頼書が提出され、2006年2月3日に確認調査を行った。その結果、対象地の西側はすでに後世の開発等により削平されていたが、東側の一部に遺構が確認された。調査面積が狭小であり調査期間もごく短期間であることから、市費単独事業として本調査を実施することとなった。発掘調査は2006年2月17日から開始し、同年2月28日に終了した。

日拝塚遺跡5次調査は共同住宅建設に伴う緊急発掘調査である。対象地の地番は福岡県春日市下白水南7丁目53-1番で、開発に先立ち埋蔵文化財事前調査依頼書が提出され、2006年6月19日に確認調査を行った。その結果、対象地に遺構が確認されたため、受託事業として本調査を実施することとなった。発掘調査は2006年7月24日から開始し、同年8月7日に終了した。

日拝塚遺跡7次調査は個人専用住宅建替えに伴う緊急発掘調査である。対象地の地番は福岡県春日市下白水南6丁目184番で、開発に先立ち埋蔵文化財事前調査依頼書が提出され、2011年12月3日に確認調査を行った。その結果、対象地に遺構が確認されたため、市費単独事業として本調査を実施することとなった。発掘調査は2012年1月12日から開始し、同年2月21日に終了した。

2 調査の組織

発掘調査を行った平成17、18、23年度、報告書刊行の最終的作業を行った平成25年度の調査の組織は以下のとおりである。

4次調査（平成17年度）

教 育 長 山本直俊
教 育 部 長 鬼倉芳丸
文化財課長 結城保雄
管 理 担 当 係 長 戸渡 隆
 事務主査 塩足雅弘
 事務主査 松竹典子
文化財担当 係 長 丸山康晴
 技術主査 中村昇平
 技術主査 吉田佳広
 技術主査 森井千賀子
 技術主任 境 靖紀
 技術主任 井上義也
嘱 託 坂田邦彦
嘱 託 河村麻子（～11月）
嘱 託 大久保玲子（12月～）

5次調査（平成18年度）

教 育 長 山本直俊
教 育 部 長 鬼倉芳丸
文化財課長 結城保雄
管 理 担 当 係 長 戸渡 隆
 事務主査 柚木 泰
 事務主査 塩足雅弘
文化財担当 係 長 丸山康晴
 技術主査 中村昇平
 技術主査 吉田佳広
 技術主査 森井千賀子
 技術主任 境 靖紀
 技術主任 井上義也（～6月）
嘱 託 吉田浩之
嘱 託 長谷部真弓

7次調査（平成23年度）

教 育 長 山本直俊
教 育 部 長 古賀俊光
文化財課長 廣瀬貴之
管 理 担 当 課長補佐 平田定幸（～4月）
統括係長 中村昇平（7月～）
主 査 増永睦司
主 任 山田ひとみ
主 事 佐伯廣宣
文化財担当 係 長 中村昇平（兼務）
主 査 吉田佳広
主 査 森井千賀子
主 任 井上義也
嘱 託 島津屋幸子
嘱 託 柳 智子
嘱 託 上原あい

報告書作成（平成25年度）

教 育 長 山本直俊
社会教育部長 中野又善
文化財課長 又吉淳一
管 理 担 当 係 長 上野志保
主 査 伊藤かおり
主 任 佐伯廣宣
課長補佐兼文化財担当 係長 中村昇平
主 査 吉田佳広
主 査 森井千賀子
主 査 井上義也
嘱 託 柳 智子
嘱 託 足立紫穂
嘱 託 井上 剛
嘱 託 上原あい

Ⅱ 位置と環境

日拝塚遺跡は福岡県春日市下白水南6丁目に所在し、春日市の西部にあたる。春日市西部は那珂川の右岸で河岸段丘平坦面と段丘崖がみられ、この河岸段丘崖は北から須玖、下白水、日拝塚、上白水の西側にあったと推測される。(註1) 日拝塚遺跡は中位段丘上にあるが、この段丘平坦面から一段高い台地になっており、標高27m前後を測る。旧地形図によると台地の下を水路がまわり、台地上は畑として利用されている。この台地上からは那珂川中流域から福岡平野まで見渡すことができる。

日拝塚遺跡の周辺には、旧石器時代から中・近世にかけて多くの遺跡が存在する。旧石器時代や縄文時代の遺跡は市内でも多くはないが、門田遺跡をはじめ原遺跡等の中位段丘上の遺跡や、低位段丘に位置する柏田遺跡から遺物が多く出土している。柏田遺跡では縄文時代後期の竪穴住居跡6軒が検出されている。(註2) 弥生時代の遺跡では、石尺遺跡、寺田・長崎遺跡、中白水遺跡、辻畑遺跡、門田遺跡、天神ノ木遺跡、原遺跡などの遺跡がある。低位段丘上の柏田遺跡では杭を打った溝から夜臼式土器や板付I式土器が出土し、付近に前期の水田遺構の存在が想定される。(註3) 中期になると集落、墓地ともに規模が拡大し、中位段丘上に集落の広がりがみられ、いわゆる上白水遺跡群としてとらえることができる。中でも門田遺跡辻田地区A群24号甕棺墓は甕棺内部に鏡を副葬していたと考えられる痕跡を有する。(註4) 奴国を構成する拠点集落の一つに位置付けられよう。古墳時代の遺跡では、前方後円墳である日拝塚古墳があり、6世紀前半の築造と考えられる。日拝塚古墳の北側約750mの河岸段丘上には前方後円墳の下白水大塚古墳がある。本格的な発掘調査は実施されていないため詳細は不明であるが、6世紀後半から7世紀前半頃の築造と考えられている。日拝塚古墳より南の段丘上には観音山にかけて古墳が多く築造され、5世紀後半の辻田遺跡、原遺跡、5世紀後半と6世紀後半頃の門田遺跡などの他、那珂川町観音山南麓に300基以上の群集墳が分布する。古代の遺跡として主要なものに、7世紀後半の瓦窯であるウトグチB遺跡や、大宰府防衛のための土塁が築かれた天神山水城跡、大土居水城跡があげられる。中世においては、中白水遺跡では中世以降の居館を中心とした遺構が広がっており、居館跡は一辺42～50mの溝で囲まれた区画が検出されている。居館跡は出土遺物から13世紀頃には成立し18世紀まで大きな変化をせずに存続したとされる。(註5) ウトグチC遺跡や整理池遺跡は中世の墓地が検出されており、白水地区の墓域であったといえる。

当遺跡が所在する河岸段丘上には時代が途切れることなく集落が営まれていた状況が伺え、遺跡内における遺構の分布や密度から、集落の変遷や遺跡の性格を解明していく上で手がかりになるものと思われる。

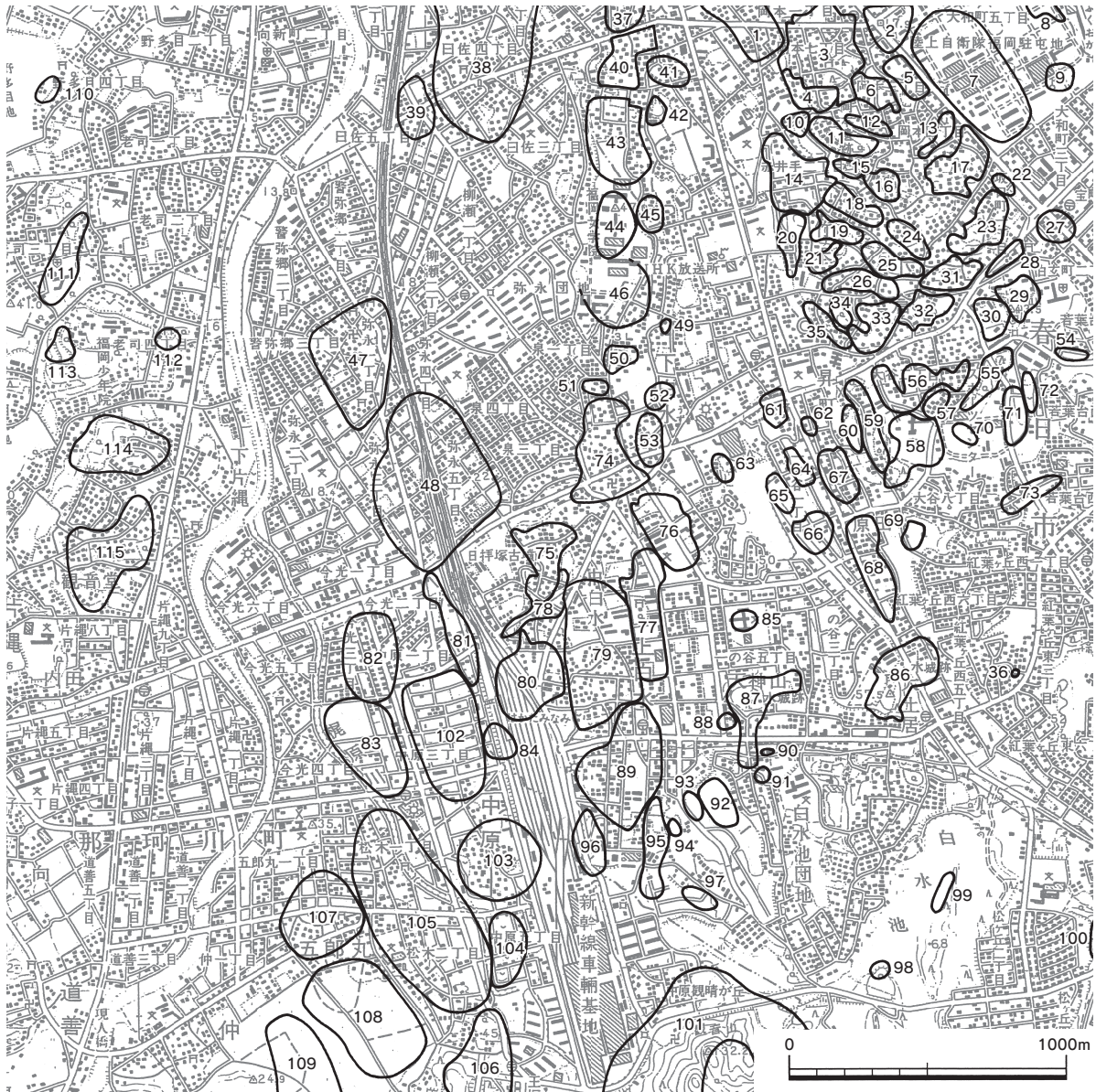
(註1) 千足恭平、澤村昌俊、田中豊俊「第一編 自然 第二章 地形・地質」『春日市史』上巻(1996)

(註2) 福岡県教育委員会『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第4集(1977)

(註3) 春日市教育委員会「7 柏田遺跡(2次調査)」『春日市文化財年報』(1995)

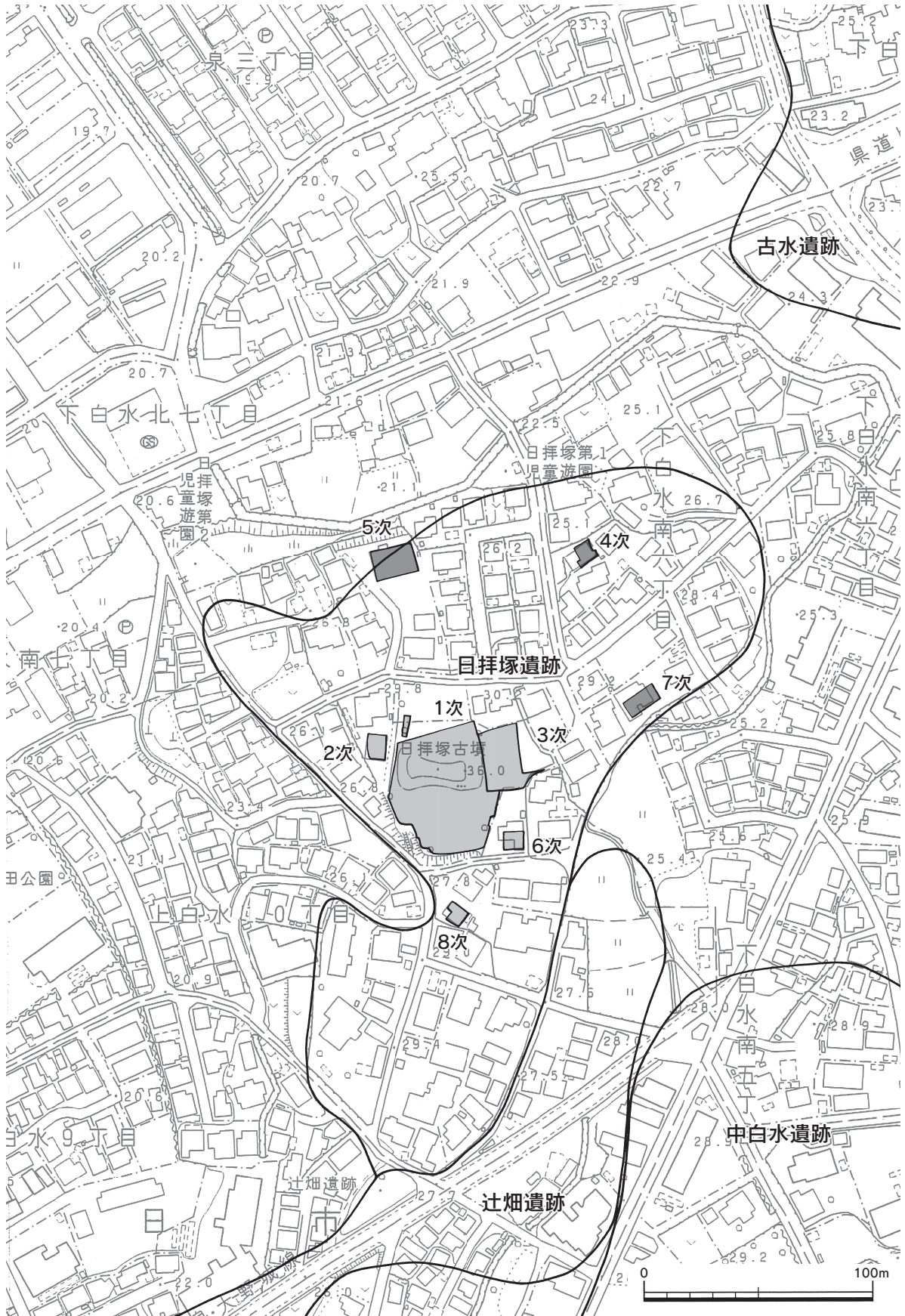
(註4) 井上裕弘編 福岡県教育委員会『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第9集(1978)

(註5) 中村昇平「第三章 春日市域の中世の主な遺構」『春日市史』上巻(1996)



第1図 日拝塚遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)

- | | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|---------------|
| 1 須玖タカウタ遺跡 | 21 竹ヶ本C遺跡 | 41 上ノフケ遺跡 | 60 トバセ遺跡 | 80 門田遺跡 | 99 白水池古墳群 |
| 2 須玖尾花町遺跡 | 22 クミイケ遺跡 | 42 林添遺跡 | 61 宮ノ下遺跡 | 81 柏田遺跡 | 100 座頭谷古墳群 |
| 3 須玖岡本遺跡 | 23 仁王手B遺跡 | 43 古ノ野上遺跡 | 62 飛脊遺跡 | 82 今光・地余遺跡 | 101 観音山古墳群 |
| 4 岡本ノ上遺跡 | 24 寺屋敷B遺跡 | 44 日佐原遺跡 | 63 寺田池北遺跡 | 83 宗石遺跡群 | 102 中原・ヒナタ遺跡群 |
| 5 野添遺跡 | 25 寺屋敷A遺跡 | 45 川久保遺跡 | 64 一の谷A遺跡 | (貝徳寺古墳) | |
| 6 須玖磐石遺跡 | 26 西方遺跡 | 46 川久保B遺跡 | 65 一の谷C遺跡 | 84 下原遺跡 | 103 中原塔ノ元遺跡 |
| 7 上平田・天田遺跡 | 27 サヤノマエ遺跡 | 47 警弥郷A遺跡 | 66 一の谷B遺跡 | 85 向野遺跡 | 104 カイ子遺跡群 |
| 8 大荒遺跡 | 28 伯玄社遺跡 | 48 警弥郷B遺跡 | 67 原田B遺跡 | 86 大土居水城跡 | 105 松木遺跡群 |
| 9 大坪遺跡 | 29 松添遺跡 | 49 重久B遺跡 | 68 原田C遺跡 | 87 天神山水城跡 | 106 カクチガ浦遺跡群 |
| 10 草野遺跡 | 30 ナライ遺跡 | 50 下ノ原遺跡・ | 69 原田A遺跡 | 88 池ノ内遺跡 | 107 屋敷ノ内遺跡群 |
| 11 平岩A遺跡 | 31 仁王手A遺跡 | 下白水大塚古墳 | 70 高辻A～C遺跡 | 89 天神ノ木遺跡 | 108 前田遺跡群 |
| 12 上散田遺跡 | 32 堂園遺跡 | 51 下立頭遺跡 | 71 ラビラオ遺跡 | 90 池ノ内C遺跡 | 109 仲遺跡群 |
| 13 抽ノ木A遺跡 | 33 大南B遺跡 | 52 重久遺跡 | 72 小倉池ノ下遺跡 | 91 池ノ内B遺跡 | 110 ウトロ遺跡 |
| 14 赤井手遺跡 | 34 藤波遺跡 | 53 天神免遺跡 | 73 小倉水城跡 | 92 整理池遺跡 | 111 卯内尺古墳群 |
| 15 平岩B遺跡 | 35 豆塚山遺跡 | 54 西平塚遺跡 | 74 古水遺跡 | 93 ウトグチB遺跡 | 112 老松神社古墳群 |
| 16 平岩C遺跡 | 36 紅葉ヶ丘遺跡 | 55 高辻D・F遺跡 | 75 日拝塚遺跡 | 94 ウトグチC遺跡 | 113 老司古墳 |
| 17 抽ノ木B遺跡 | 37 野藤遺跡 | 56 大南A遺跡 | 76 石尺遺跡 | 95 百堂遺跡 | 114 野口遺跡群 |
| 18 石橋遺跡 | 38 日佐遺跡群 | 57 高辻E遺跡 | 77 寺田・長崎遺跡 | 96 原遺跡 | 115 観音堂古墳群 |
| 19 竹ヶ本B遺跡 | 39 上日佐遺跡群 | 58 大谷遺跡 | 78 辻畑遺跡 | 97 ウトグチA遺跡 | |
| 20 竹ヶ本A遺跡 | 40 浦田遺跡 | 59 林田遺跡 | 79 中白水遺跡 | 98 イゲ谷遺跡 | |



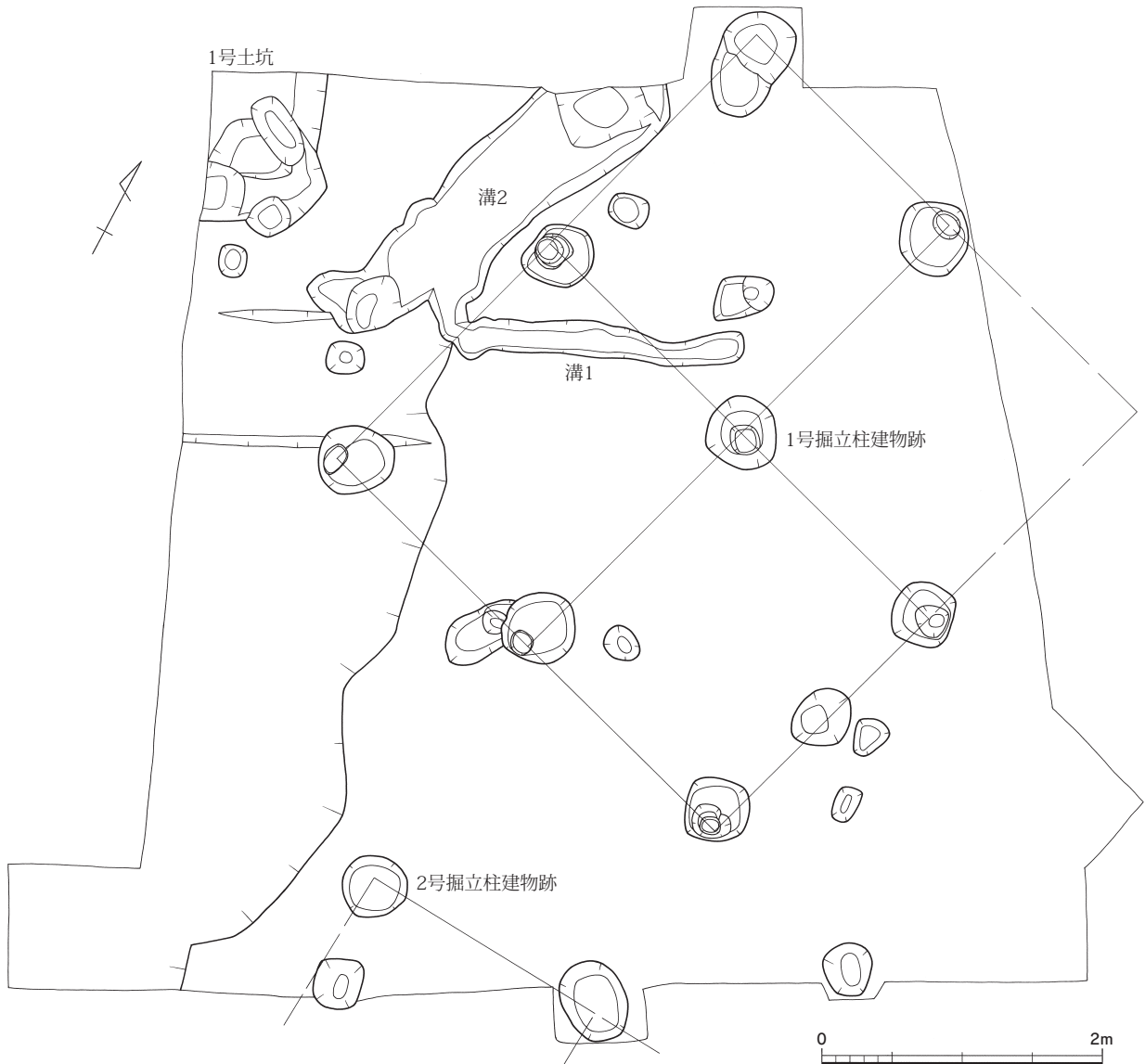
第2図 日拝塚遺跡位置図 (1/2,500)

Ⅲ 4次調査の内容

1 調査の概要

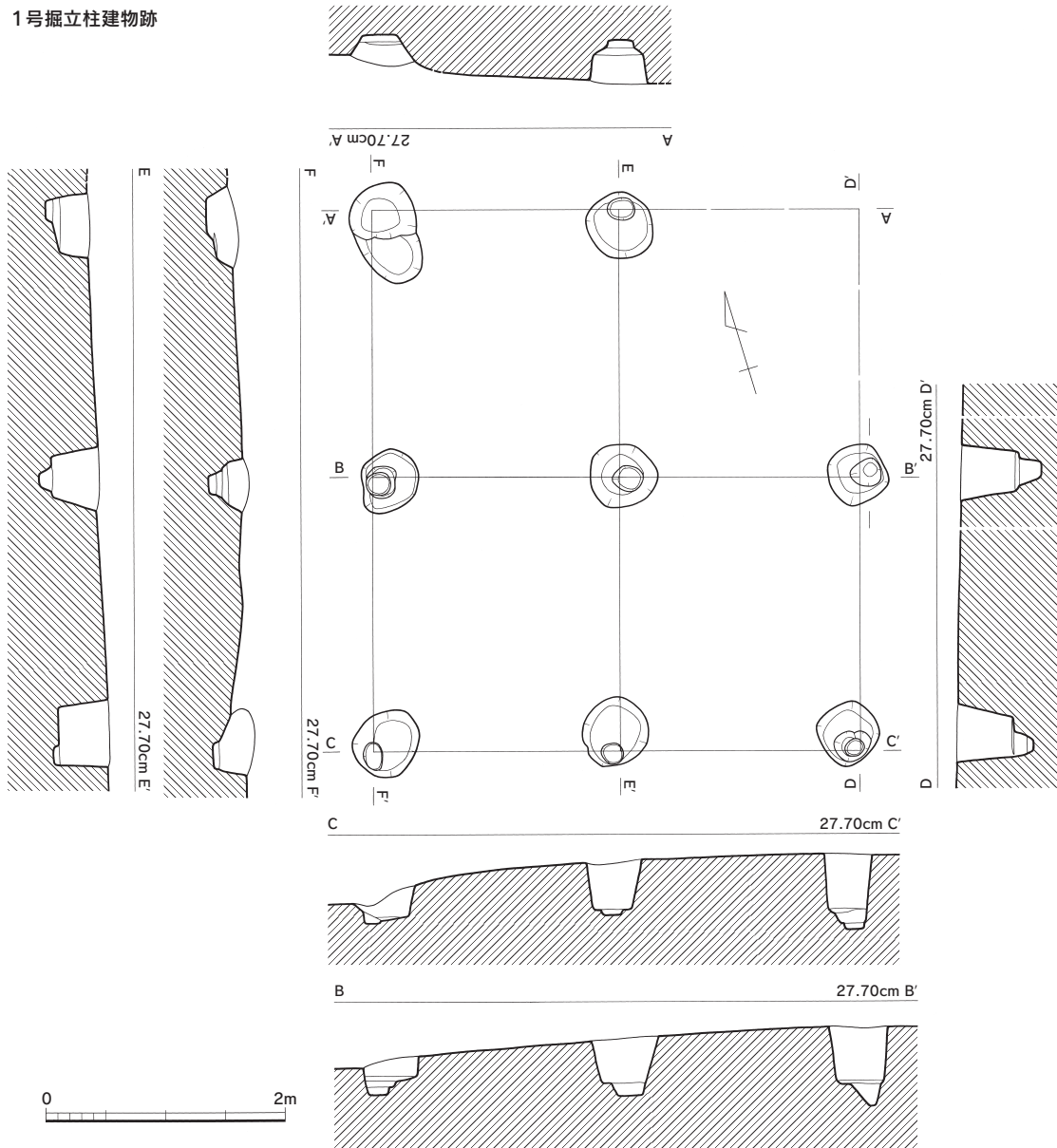
日拝塚遺跡ではこれまで3次調査が行われており、いずれも日拝塚古墳の調査である。4次調査地点は日拝塚古墳から北東方向へ約40mの地点に位置し、標高27.5mを測る。日拝塚遺跡が所在する台地の北西側へ傾斜する斜面上にあたる。対象地の東側は耕作土と客土を除去すると深さ19cmで褐黄色粘質土の遺構検出面に達した。対象地の中央から西側は北西に向かって低く傾斜しており、西側では遺構は確認されなかったため、遺構を確認した東側のみを調査した。

発掘調査の結果、掘立柱建物跡2棟、溝2条、土坑1基、ピットを検出した。

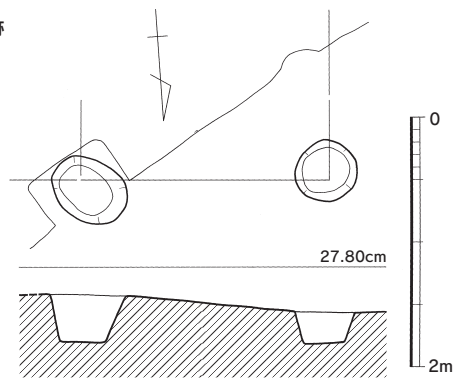


第3図 4次調査遺構配置図 (1/50)

1号掘立柱建物跡



2号掘立柱建物跡

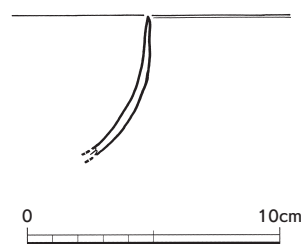


第4图 1·2号掘立柱建物跡実測图 (1/60)

2 遺構

(1) 掘立柱建物跡 (第4図)

1号掘立柱建物跡は2間×2間の総柱建物で柱間は東西方向より南北方向が約40cm広い。柱穴掘り方はいずれも直径約50cmのやや楕円形で、底部が柱痕らしく一段深くなる。柱穴掘削時に平面で直径17～20cmの柱痕と認識して断ち割ったが、土層断面で明確な柱痕は確認されていない。柱穴からは土器片が少量出土しているが、図示できるものはない。



第5図 遺構検出時出土
土師器実測図 (1/3)

2号掘立柱建物跡は柱穴を2基検出したのみで、調査区外に広がるものと思われる。東側の柱穴は中央西寄りに直径18cmの柱痕を確認している。1号掘立柱建物とはわずかに向きが異なり、約13°西に傾く。

(2) 土坑

土坑は調査区の北西隅で、土坑の一部を検出した。深さは約10cmである。ピットと切り合うが、切り合い関係は不明である。

(3) 溝

1号溝は幅25cm、深さ10～13cmで、断面はU字形を呈する。2号溝と切り合うと考えられるが、対象地の西側が削平されており、切り合い関係は不明である。溝の底部のレベルは僅かではあるが、東から西に向かって低くなる。

2号溝は1号掘立柱建物跡にほぼ平行して検出された。幅約80cmあるが、深さは約2～5cmと残りは良くない。

3 遺物 (第5図)

遺物は弥生土器、土師器、黒曜石片、陶磁器が少量出土したのみで、いずれも細片である。図示できたのは土師器の椀で、遺構検出時に出土した。胎土は砂粒をほとんど含まない。色調は明褐色を呈し、体部外面に黒斑がある。器壁の磨滅が著しく調整不明。口縁部の一部と体部を約1/3残存する。

4 小結

4次調査は調査範囲が狭く、出土遺物が細片であることから、遺跡の性格や時期を把握するには至っていない。日拝塚遺跡が所在する台地上には、今回検出した掘立柱建物跡を含む集落の展開が予測される。1号土坑、2号溝からは土師器の椀が出土している。出土土器が細片のため断定はできないが、遺構検出時に出土した土師器と同時期のものと思われる。また、遺構検出時に白磁椀の口縁部が出土しており、弥生時代から古墳時代の集落だけでなく、中世も集落が営まれた可能性が考えられる。

IV 5次調査の内容

1 調査の概要

5次調査地点は日拝塚古墳から北に約90mの位置にあり、標高は28.4mを測る。日拝塚遺跡が所在する台地の北端部にあたり、現況では5次調査地点と北側に隣接する田とは比高差約7mの段差が生じている。これまでに日拝塚遺跡周辺で行った発掘調査で弥生時代の集落跡が検出されており、対象地にも集落が広がると想定された。遺構は確認調査時の地表面から22cmの深さで検出された。

発掘調査の結果、土坑2基、溝1条、ピット多数を検出した。遺構の大半はピットであるが、明確な柱穴と見られるものは存在しない。ピットの配置からは建物跡を抽出することはできなかった。また、調査区の北西部は大半を攪乱され、本来の地形が大きく損なわれている。

2 遺構（第7図）

1号土坑は調査区の中央で検出した。平面形は長軸2.6m、短軸1.0mの楕円形を呈する。深さは約58cmであるが、長軸の両端とも浅い段状になっている。出土遺物はない。

2号土坑は調査区の西側やや中央部で検出した。平面形は1.3×1.5mの不定形を呈し、深さ約60cmである。出土遺物はない。

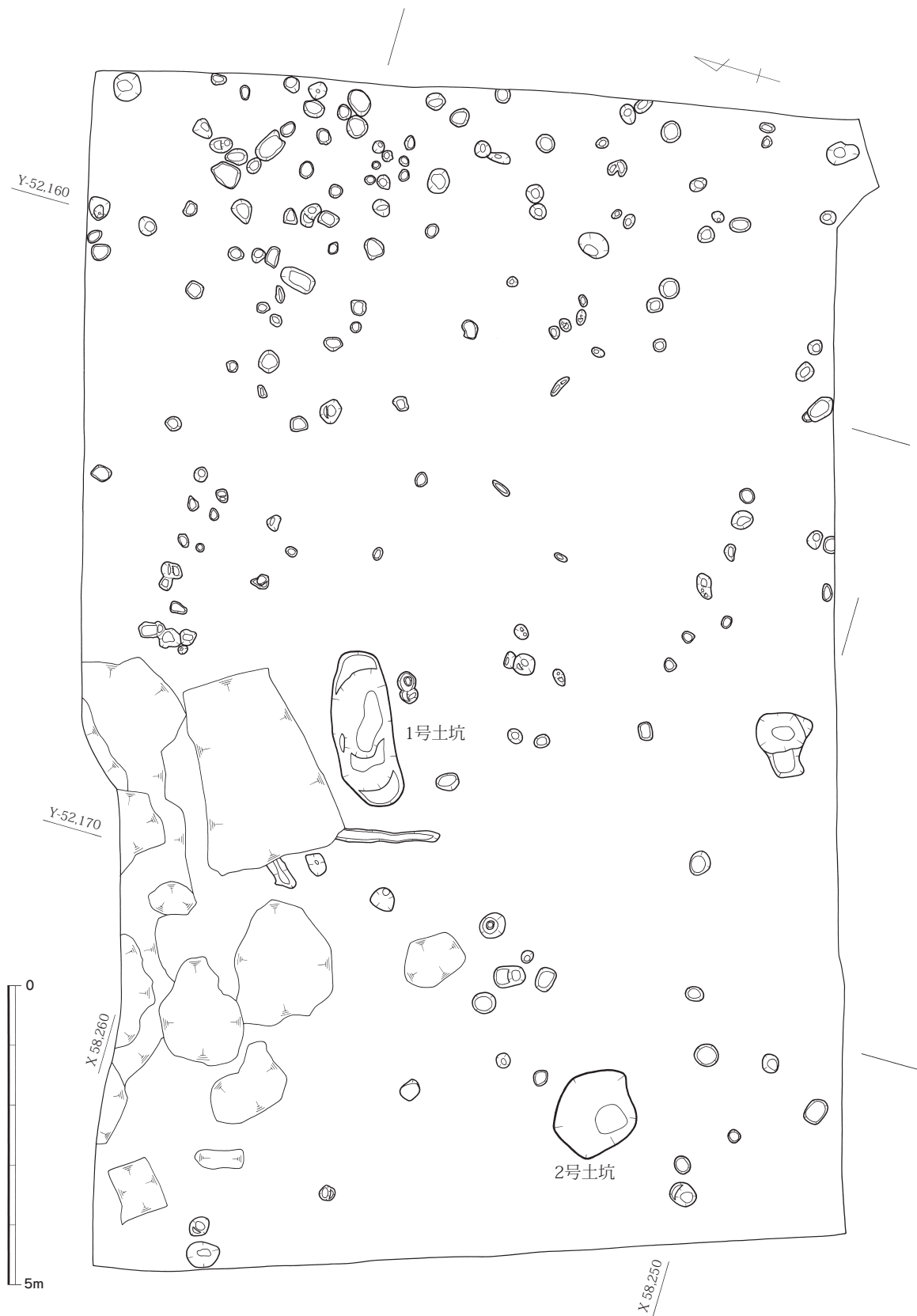
3 遺物（第8図）

遺物は弥生土器、土師器、石器、黒曜石片が少量出土したのみである。明確な遺構に伴うものではなく、ほとんどが攪乱からの出土である。ピットから土師器の高台部細片が出土しているが、細片のため図示できなかった。石器は石鏃の他、砥石と思われる細片がある。

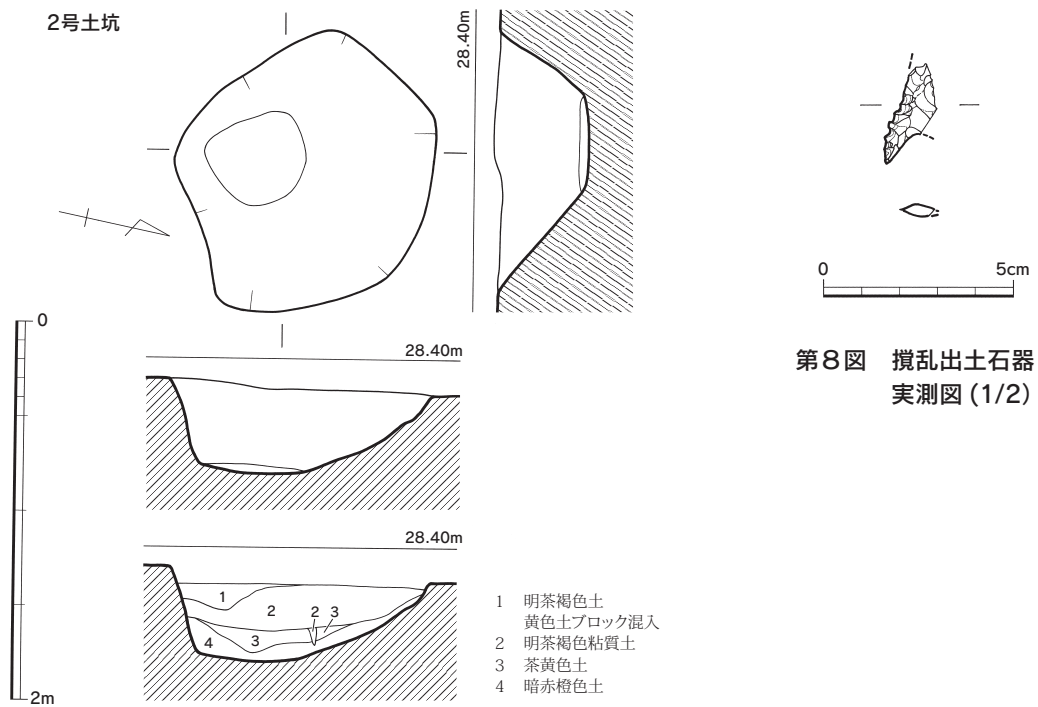
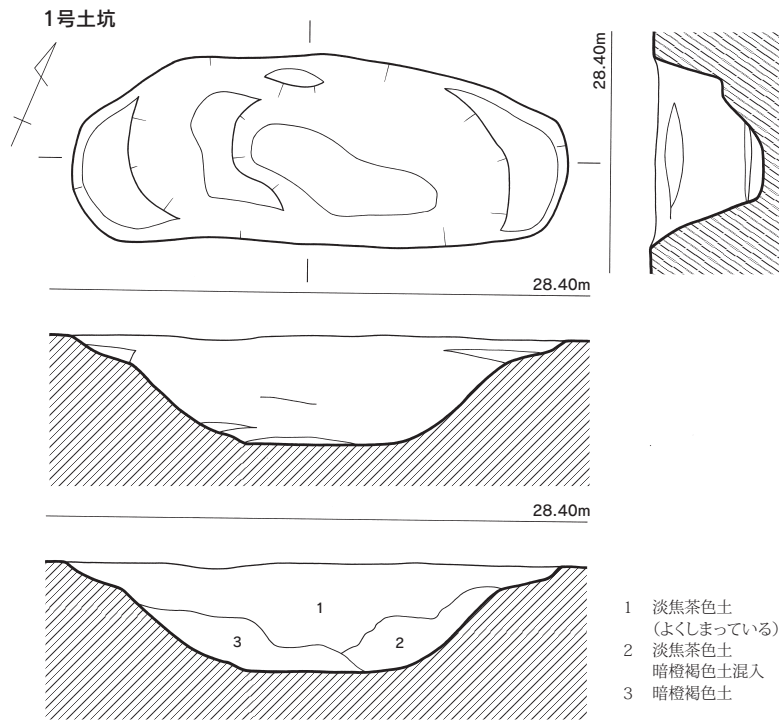
唯一、図示した石鏃は、1・2号土坑間に位置する攪乱から出土したものである。残存長2.7cm、厚さ0.4cm、挟り長0.8cm、基部1.0cmで、側縁が鋸歯状を呈する。尖頭部と脚部の片方を欠損する。

4 小結

これまでの周辺の調査より、今回の対象地には弥生時代から古墳時代の集落跡が検出されると期待された。旧地形図によると、今回調査した5次調査地点と4次調査地点の間には小さな谷が入っていたことが分かる。ピットが比較的東部に集中し、調査区の北西部が大きく攪乱されている状況は、5次調査地点の東側は緩やかに傾斜しているため比較的遺構の残りが良く、西側の遺構は近世の耕作などにより削平され、残存する遺構密度が低くなった可能性も考えられる。5次調査地点が集落の縁辺部にあたるのか、現時点では詳細は不明とせざるを得ない。今後の周辺での調査成果を待ちたい。



第6図 5次調査遺構配置図 (1/100)



第8図 攪乱出土石器
実測図(1/2)

第7図 1・2号土坑実測図(1/40)

V 7次調査の内容

1 調査の概要

7次調査地点は日拝塚古墳から東に約70mの地点に位置し、日拝塚遺跡が所在する北東―南西方向に延びる小丘の尾根からやや南に傾斜したところにあたる。標高は28.0m前後である。これまでの発掘調査で弥生時代から古墳時代の集落跡が検出されており、対象地にも集落が広がると想定された。

発掘調査は土置き場を確保するため、西半部と東半部に分けて実施した。対象地は旧地形図によると7次調査地点の南側に里道があり、里道の南側には水路がある。現況では7次調査地点は水路まで宅地造成されており、水路との比高差は約3mある。客土等を除去すると北側で57cm、南側で約100cmの深さで明黄褐色粘質土の遺構検出面に達した。遺構検出面は北から南に向かって傾斜しており、後世の開墾等により尾根である北側を削り平坦にしていると思われる。また、対象地の南側は宅地造成時の擁壁施工によると思われる攪乱があり、この攪乱から南側は客土で埋められている。

発掘調査の結果、竪穴住居跡1軒、土坑2基、溝状遺構3条、ピット多数を検出した。

2 遺構

(1) 竪穴住居跡 (第10図)

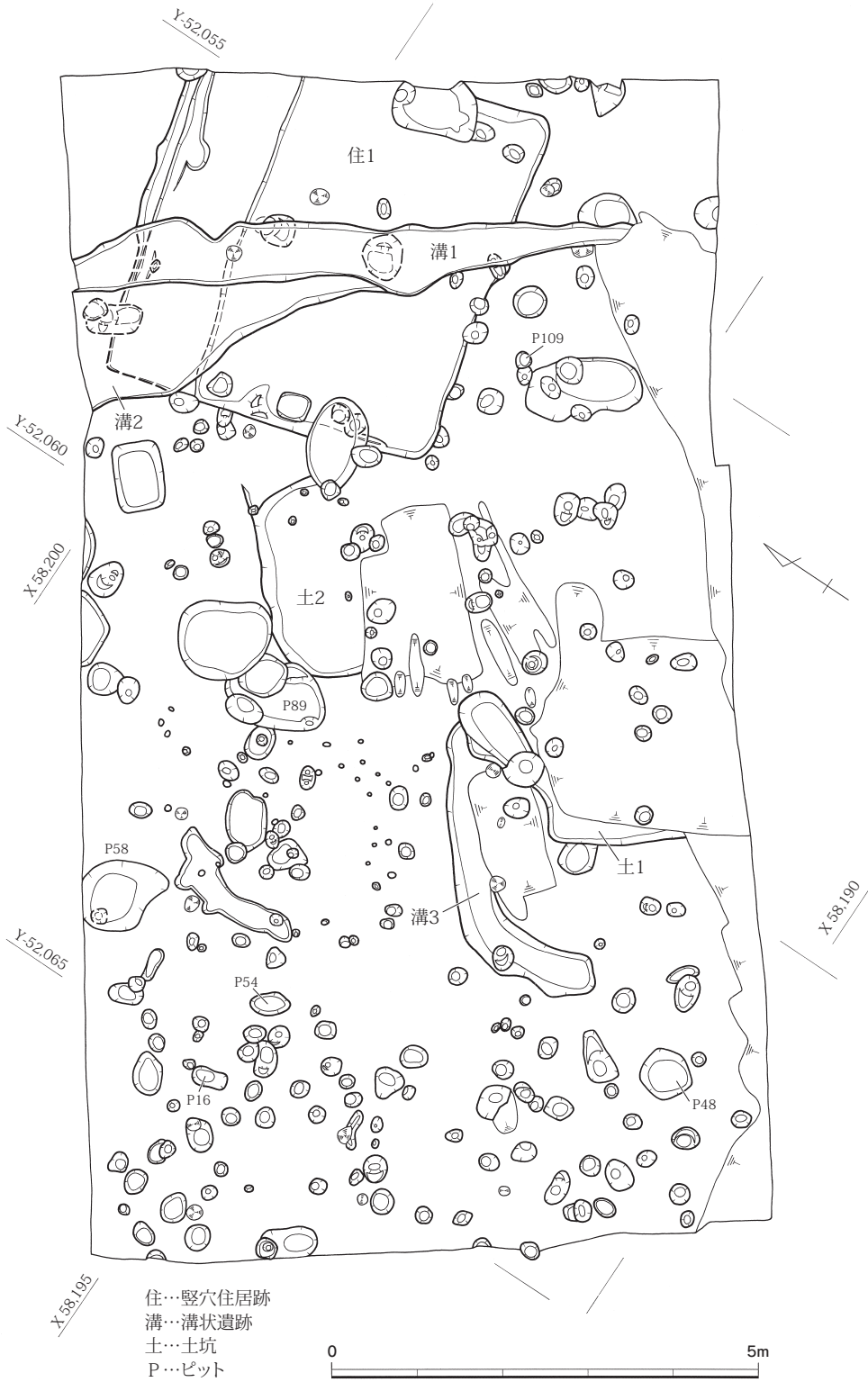
1号住居跡は調査区の東半で検出した。1辺4.4×4.1mで正方形に近い形をしており、北辺にはベッド状遺構があり、幅105cm、床面から高さ10cmで地山削り出しによる。北辺の壁下と西辺の一部に壁際溝がみられた。東辺には100×70cm、深さ20cmの屋内土坑がある。住居跡の中央には炉跡があり、炉跡は53×46cm、深さ6cmで、炉跡周辺には炭化物がみられた。この炉跡から北側1.3mの位置あるピットが支柱穴と思われる。柱穴は径40cm、深さ41cmで北側に挟れる。南側にはこれと対になる柱穴が南辺上にある。径22cm、深さ43cmを測る。柱穴の径が小さいことや住居跡の南辺に位置することは、調査地点が南に向かって低く傾斜していることから、後世の開墾等により、竪穴住居跡の南辺のベッド状遺構が削平されて消滅しているためと考えられる。

出土遺物は弥生土器、石器があるが、いずれも細片で図示できるものは少ない。この他、縄文土器の破片が1点混入している。

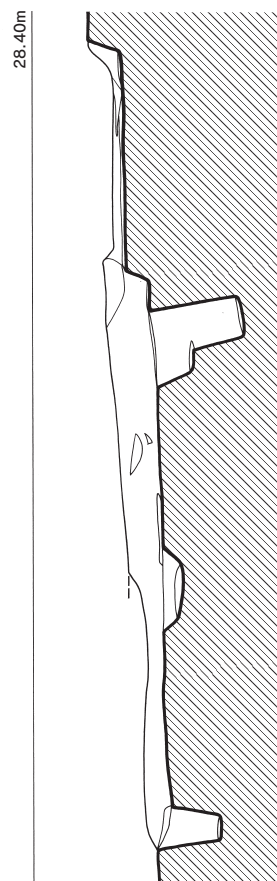
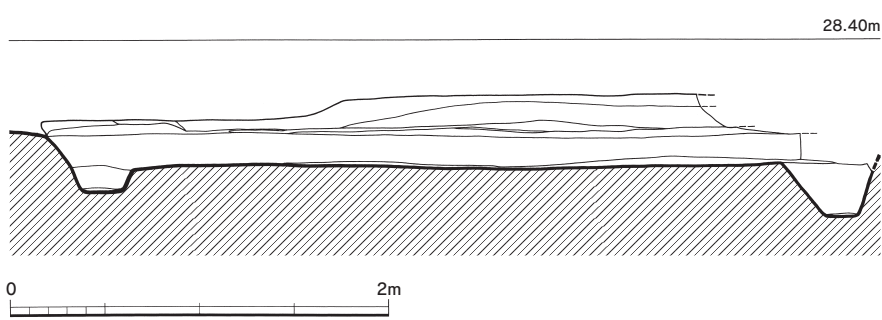
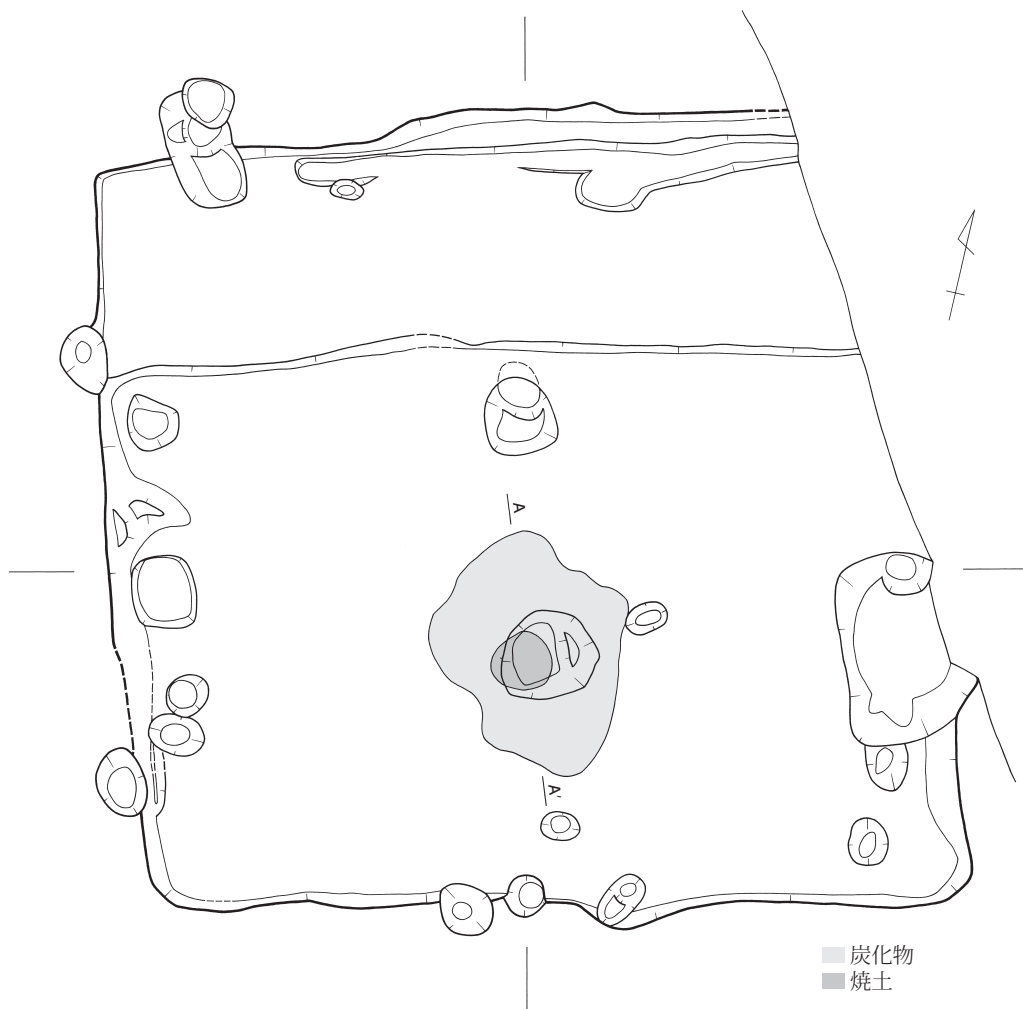
(2) 土坑

1号土坑は調査区の中央からやや南側で検出した。ピットや攪乱に切られるため、全体はわからないが、深さも約5cmと浅い。須恵器、土師皿が出土した。

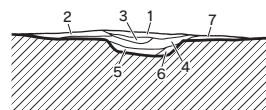
2号土坑は調査区の中央からやや東側で検出した。長軸2.35mで隅丸方形を呈する。深さは残りの良いところで11cmであるが、南側は攪乱や削平により南側の立ち上がりを検出できていない。出土遺物は土師皿、鉄器がある。



第9図 7次調査遺構配置図 (1/80)

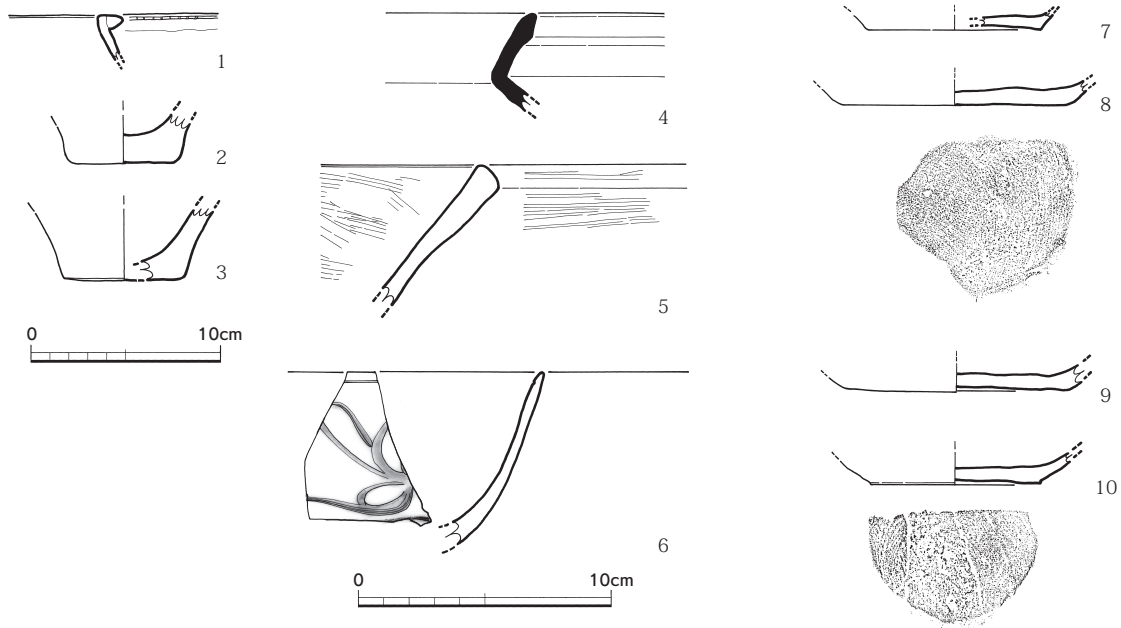


A 28.60m A'



- 1 灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
- 2 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土
- 3 明赤褐色粘質土
- 4 黒褐色(7.5YR3/1)粘質土
灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
明赤褐色(2.5YR5/8)の小ブロック混入
- 5 3とほぼ同じ
- 6 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土
- 7 2とほぼ同じ

第 10 図 1号竖穴住居跡実測図 (1/40)



第 11 図 住居跡・土坑・溝・ピット出土土器・陶磁器実測図 (1/4・1/3)

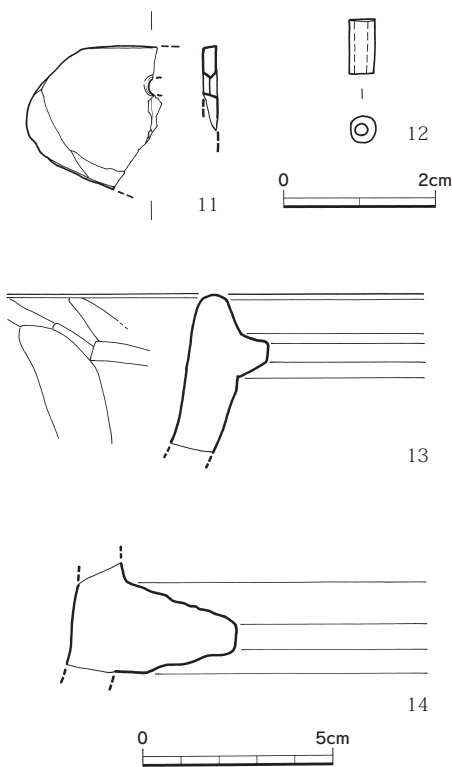
(3) 溝状遺構

1・2号溝状遺構は調査区の東側で検出した。1号溝状遺構は幅約50cm前後で、深さ約3～4cmと残りはよくない。2号溝状遺構は1号溝状遺構に切られる。北側は1.6m以上で深さは2～5cmである。本来、同一の遺構と考えられるが、埋土の土色が異なっていたため、切り合いとしてとらえた。この溝状遺構は北側と南側の高低差が約45cmあることから、通路ではないと思われる。1号溝状遺構からは土師皿、陶磁器が出土し、2号溝状遺構からは石製品が出土した。

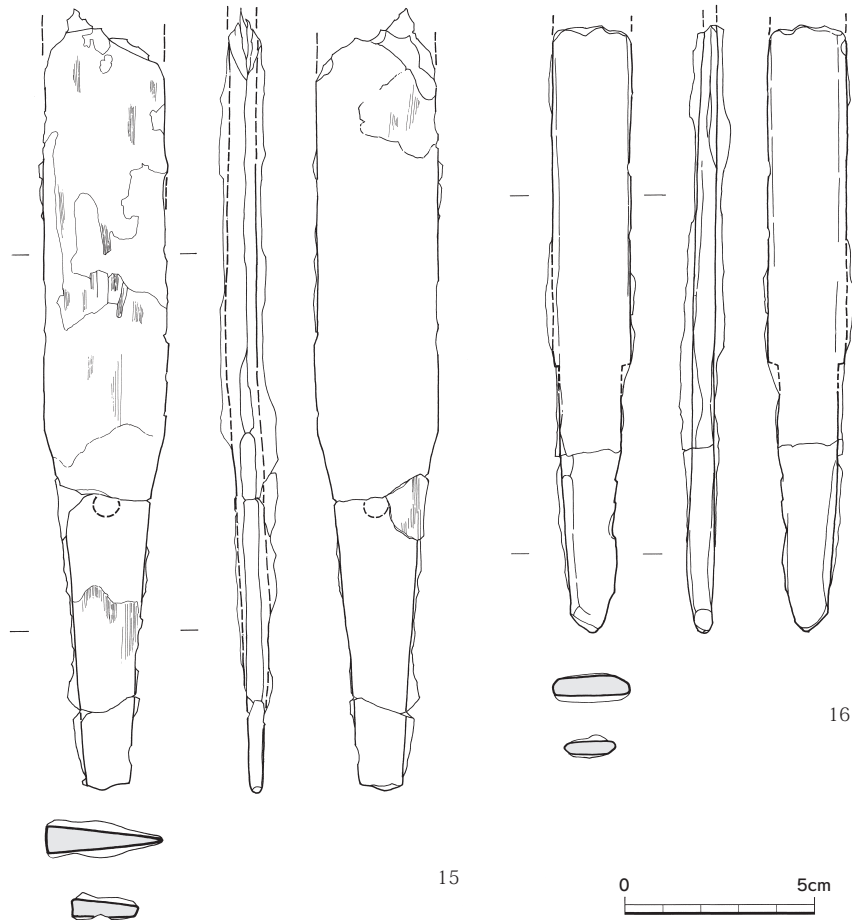
3号溝状遺構は調査区の中央からやや西側で検出した。幅50～55cm、深さ2～10cmで、東西方向に約2m延び、南側へゆるやかに弧を描く。出土遺物はない。

(4) ピット

ピットは調査区内で全体的に検出された。この中に掘立柱建物跡の柱穴になるものがあると思われるが、確認することはできなかった。ピットから出土した主要な遺物としてはP48から石製管玉、P58から鉄器が出土した。P48は調査区の南隅で、直径約57cmの五角形に近い円形で、深さは68cmである。出土遺物には土師器の細片や黒曜石



第 12 図 住居跡・ピット出土
石器・玉類・石製品実測図 (1/2・1/1)



第 13 図 土坑・ピット出土鉄器実測図 (1/2)

のチップなどがあり、いずれも混入したものと考えられる。P58 は調査区の北側で検出した。直径約 80cm の楕円形を呈し、南側に長く広がる。深さは約 10cm である。鉄器はこの南側に広がった部分から出土した。出土遺物には土師器の細片があるが、時期を判断できるものはない。

3 遺物

(1) 土器・陶磁器 (第 11 図)

1～3 は 1 号竪穴住居跡から出土した弥生土器である。1 は口縁部外面に断面三角形の粘土帯を貼り付け、端部には浅い刻目を施す。胎土は 1mm 前後の石英、長石、微細な雲母を含む。色調は淡橙色～にぶい黄橙色を呈する。2、3 は甕の底部で、2 の胎土は 1mm 前後の石英、長石、微細な雲母、角閃石を含む。浅黄橙色を呈し、底径 5.8cm である。3 の胎土は 1～2mm 前後の石英、長石、微細な雲母を含み、橙色を呈する。底部を 1/4 残存し、復元底径は 6.4cm である。いずれも磨滅しており調整不明である。4 は 1 号土坑から出土した。須恵器の甕の口縁部である。同遺構からは土師器の小皿も出土しており、混入である。7～10 は土師器の小皿で底部のみ残存する。7 は 1 号溝状遺構、8 は P89、9 は 1 号土坑、10 は 2 号土坑から出土した。7 の胎土は砂粒をほとんど含まない。

底部を約 1/4 残存し、復元底径 6.9cm。磨滅のため調整不明。8 の胎土も砂粒をほとんど含まない。底部内面はヨコナデ、外面は糸切りで板状圧痕あり。底部を約 1/3 残存し、復元底径 8.8cm。9 の胎土は砂粒をほとんど含まない。磨滅のため調整不明であるが、底部外面に板状圧痕あり。底部を約 1/3 残存し、復元底径 8.7cm。10 の胎土は 1mm 以下の赤色細粒を含む。底部内面は磨滅しているが、外面は糸切りである。約 1/2 残存し、復元底径 6.6cm である。

5 は瓦質土器の捏鉢で口縁部細片である。P109 から出土した。胎土は 1 mm 未満の石英、長石を含み、暗灰色を呈する。口縁部の内外面とも調整はヨコナデである。6 は青磁の椀で、1 号溝から出土した。胎土は灰白色、施釉は灰オリーブ色で薄い。口縁部内面に沈線があり、外面は無文、内面は片彫蓮華文である。口縁部から体部にかけての破片で、龍泉窯系青磁の椀 I 類。

(2) 石器・玉類・石製品 (第 12 図)

11 は石庖丁の破片で、1 号竪穴住居跡から出土した。背を直線的に研磨している。厚さは 4 mm で、最大厚は背～孔間にある。12 は石製管玉で、P48 から出土した。長さ 73mm、幅 3.1～3.5mm である。13、14 は滑石製石鍋の破片である。13 は P16、14 は P54 から出土した。13 は口縁部細片で、外面の調整はヨコ方向のケズリ後ヨコ方向にミガキ、内面はタテ及びナナメ方向のケズリ後ヨコ方向にミガキを施す。外面の突帯部から下にかけて煤が付着している。また、破片の断面には摺り切り状の擦痕がある。14 は突帯部の破片で、石材の肌理は粗く所々窪んでいる。突帯部の上面は横方向のケズリが筋状にみられ、煤が付着している。突帯部の破断面に穿孔の痕跡あり。

(3) 鉄器 (第 13 図)

15 は短刀で、P58 から出土した。残存長 20.7cm で身部を欠損する。身部幅は 3.2cm、棟幅は 0.7cm である。関部は幅 3.2cm、茎尻幅 1.3cm で、茎端に向けて細くなる。X 線透過で茎端から 7.5cm の位置に目釘穴があり、この部分は丸く錆膨れしている。部分的に木質が残り、鞘や柄部を伴っていたと思われる。16 は板状の鉄器で、2 号土坑から出土した。X 線透過によると両関で、目釘穴は確認できない。形から刀子かと思われたが、身部の断面が長方形を呈し刃部はない。残存長 16.0cm、復元関幅 2.1cm、茎部長 7.0cm、身部幅 2.1cm である。

4 小結

7 次調査で検出した主な遺構は弥生時代後期の住居跡、12 世紀後半頃の溝状遺構である。1 号住居跡は出土遺物のほとんどが土器の細片であり、住居の時期を明確に示すものはないが、平面形が長方形で、支柱穴が 2 本であることから弥生時代後期前半と想定される。弥生時代については、後期の住居跡が日拝塚古墳の東側においても検出され、同時期の集落の広がりを確認した。また、中世においては明確な建物跡等は確認できていないが流れ込んだ遺物の状況から、当遺跡の台地尾根上において中世の集落に伴う遺構の存在が想定される。

IV まとめ

日拝塚遺跡はこれまでに1～8次調査が行われているが、1、3次調査は日拝塚古墳の整備に伴う確認調査であり、これ以外の調査は開発に伴う緊急発掘調査で、調査面積が狭小であることから、遺跡の詳細については不明であるといわざるをえない。この中で弥生時代の遺構が確認された調査は1、6～8次調査である。1次調査は日拝塚古墳整備のための確認調査であったため古墳以外の遺構の詳細は報告されていないが、日拝塚古墳の南側平坦面において、弥生時代後期の竪穴住居跡を確認している。(註1) 6次調査は日拝塚古墳の南側平坦面の東側隣地で、弥生時代前期の貯蔵穴や弥生時代後期の竪穴住居跡の一部が確認されている。(註2) 7次調査は台地の南斜面にあたり、弥生時代後期の竪穴住居跡を確認した。8次調査は日拝塚古墳の南側で、西から東西方向に入る小さな谷の谷頭にあたり、石棺墓等が検出されている。(註3) これらから日拝塚遺跡が所在する台地の北半南東側に弥生時代後期の竪穴住居跡がみられる傾向が伺えるが、台地の尾根から南東にかけて集落が広がると推測される。

古墳時代の遺構では4次調査で掘立柱建物跡を検出しており、この掘立柱建物跡を含む集落が日拝塚古墳築造の前後に造られた可能性があると考えられている。(註4) 古墳時代の集落の広がりについては調査例の増加を待ちたい。

中世において当地は白水荘として文献にみることかできる。これは春日市内の荘園として確認される1つに石清水八幡宮白水荘があり、石清水八幡宮の検校であった成清が、1192(建久3)年に筑前国内の宇美宮以下の六ヶ所を、女子の紀氏に対して譲った文書に白水荘が記されているものである。江戸時代には上白水村、下白水村の二つの村として認識されるが、当地の産土神である白水八幡宮は、白水荘が石清水八幡宮領であった時代に、石清水八幡宮を勧請して成立したのではないかと考えられ、その創立は中世にさかのぼると思われる。(註5) 上白水村の中心的な集落にあたる中白水遺跡では、一辺42～50mの溝で囲まれた区画を持つ居館跡が検出され、出土遺物から居館跡は13世紀頃には成立したとされる。(註6) 下白水村の中心的な集落にあたる古水遺跡では発掘調査件数も多くはなく、中世の様相は明らかであるとはいえない。今回の調査では日拝塚遺跡にも中世の集落があったと推測されるのみで、白水荘であった頃の集落の様相を把握するには至らないが、12世紀以降、白水荘において集落が散村的形態から集村形態へと変化していったのかということを検討する一助となるのではないかと思われ、今後の調査例の増加に期待したい。

(註1) 春日市教育委員会「国指定史跡日拝塚古墳」春日市文化財調査報告書第8集(1981)

(註2) 春日市教育委員会「7 日拝塚遺跡(6次調査)」『平成20年度 春日市文化財年報』(2010)

(註3) 春日市教育委員会「3 日拝塚遺跡(8次調査)」『平成24年度 春日市文化財年報』(2014)

(註4) 春日市教育委員会「11 日拝塚遺跡(4次調査)」『平成17年度 春日市文化財年報』(2007)

(註5) 春日市史編纂委員会編「第4編中世 第1章 鎌倉時代」『春日市史』上巻(1996)

(註6) 春日市史編纂委員会編「第4編中世 第3章 春日市域の中世の主要な遺構」『春日市史』上巻(1996)

圖 版



1 4次調査 調査区全景（西から）



2 1号掘立柱建物跡（南から）



3 1号溝（東から）

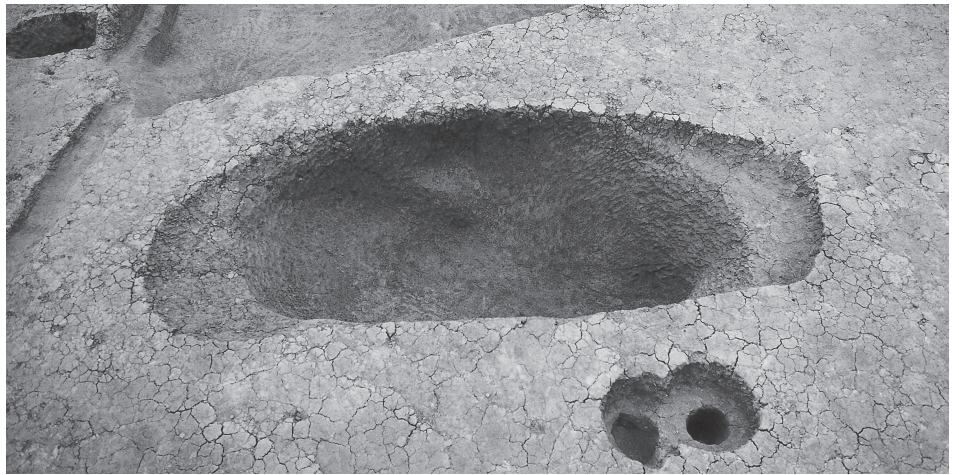
図版2



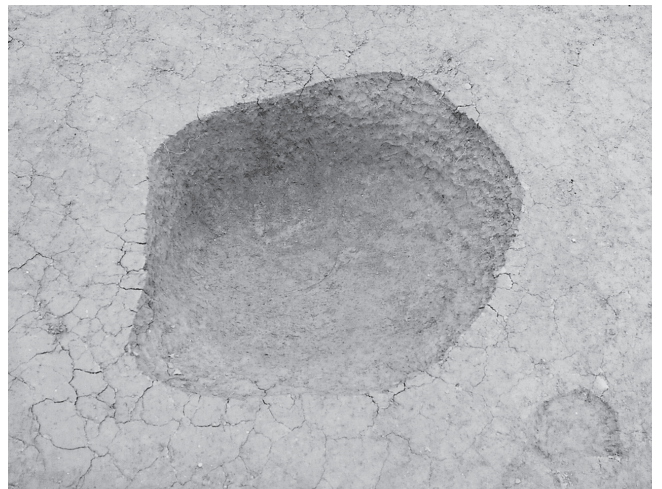
1 5次調査 調査区全景（上が北）



2 5次調査地点より北方を望む（南から）



1 1号土坑 (南から)



2 2号土坑 (東から)



3 7次調査 調査区西半全景 (北から)

図版4



1 7次調査 調査区東半全景（南から）



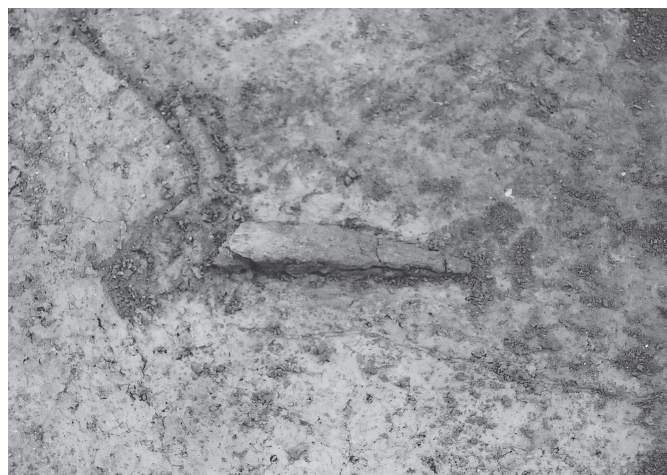
2 7次調査地点から南方を望む（北から）



1 1号住居跡（南から）



2 1号住居跡炉跡土層断面（西から）

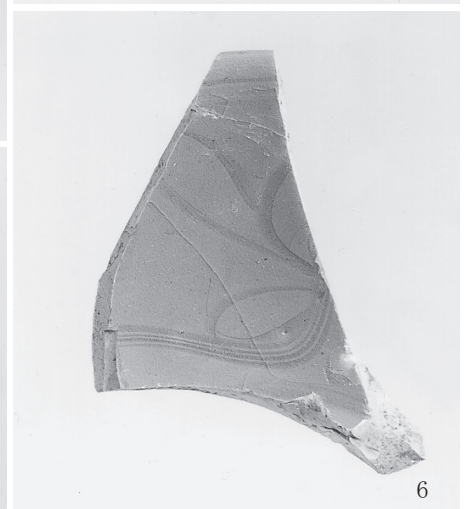
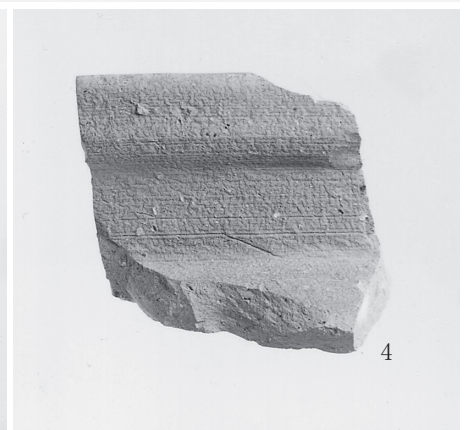
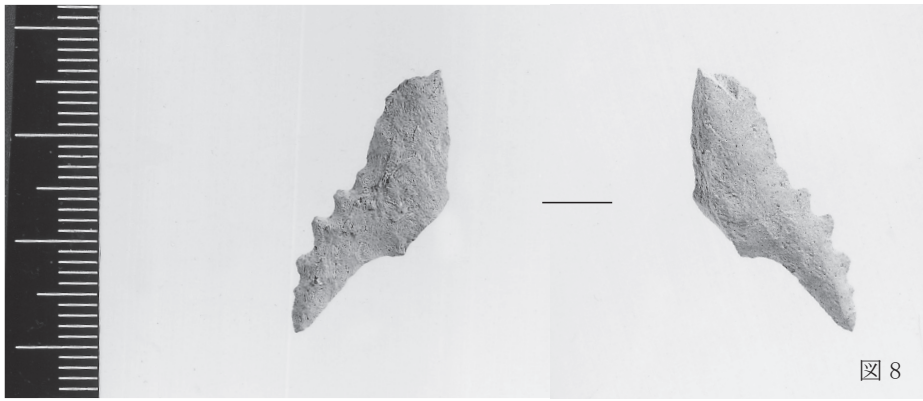


(右上) 3 P58 鉄器出土状況（東から）

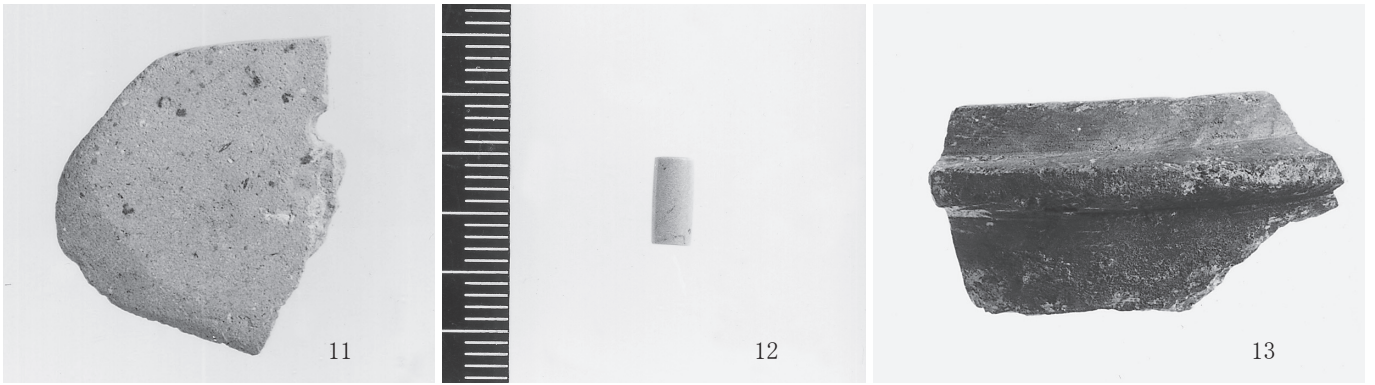
(右下) 4 2号土坑鉄器出土状況（西から）



图版6



4・7次調査出土土器・石器・陶磁器



7次調査出土石器・玉類・石製品・鉄器

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひはいづか いせき							
書名	日拝塚遺跡 4、5、7次調査							
副書名	福岡県春日市下白水南所在遺跡の調査							
巻次								
シリーズ名	春日市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第72集							
編著者名	森井千賀子							
編集機関	春日市教育委員会							
所在地	〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番地5 TEL 092-584-1111							
発行年月日	2014年3月31日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / ''	東経 ° / ' / ''	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村番号	遺跡番号					
ひはいづかいせき 日拝塚遺跡 4次調査	ふくおかけんかすがしもしろうずみなみ 福岡県春日市下白水南	40218		33° 31' 24"	130° 26' 21"	2006.2.17～ 2006.2.28	50㎡	開発に伴う 緊急発掘 調査
ひはいづかいせき 日拝塚遺跡 5次調査	ふくおかけんかすがしもしろうずみなみ 福岡県春日市下白水南	40218		33° 31' 26"	130° 26' 18"	2006.7.24～ 2006.8.7	221㎡	開発に伴う 緊急発掘 調査
ひはいづかいせき 日拝塚遺跡 7次調査	ふくおかけんかすがしもしろうずみなみ 福岡県春日市下白水南	40218		33° 31' 24"	130° 26' 22"	2012.1.12～ 2012.2.21	116.14㎡	開発に伴う 緊急発掘 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
日拝塚遺跡 4次調査	集落	古墳	掘立柱建物跡	土師器				
日拝塚遺跡 5次調査	集落		土坑、ピット	土師器				
日拝塚遺跡 7次調査	集落	弥生～中世	竪穴住居跡	弥生土器、土師器				
要約	<p>当遺跡は春日市西部の中位段丘東側の台地上に位置し、標高27～28m前後を測る。この中位段丘上には門田遺跡をはじめ、天神ノ木遺跡、原遺跡、古水遺跡がある。</p> <p>当遺跡の最高所には前方後円墳である日拝塚古墳がある。4次調査は台地の北東側に位置し、古墳時代と考えられる掘立柱建物跡を検出した。5次調査は台地の北側で、集落の一部であるといえるが遺構の残存状況が良くないため、詳細は不明である。7次調査は台地の南東側に位置し、弥生時代後期と考えられる竪穴住居跡を検出した。また、12世紀頃の遺物が出土しており、周辺に同時期の集落が存在すると思われる。</p>							

日 拝 塚 遺 跡
— 4・5・7 次 調 査 —
春日市文化財調査報告書
第72集

発行日	平成 26 年 3 月 31 日
発 行	春日市教育委員会 福岡県春日市原町 3 丁目 1 番地 5
印 刷	大道印刷 株式会社 福岡県春日市日の出町 6 丁目 23

